宗教学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 ｾﾒｽﾀｰ	開講曜日･講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
宗教学概論	日本の宗教と宗教学	2	問芝　志保	4	後期 水曜日 2講時	
宗教学概論	宗教と現代社会	2	木村　敏明	3	前期 火曜日 3講時	
宗教学基礎講読	宗教と大衆文化	2	庄司　一平	4	後期 火曜日 2講時	
宗教学基礎講読	宗教民俗学の基礎	2	阿部　友紀	3	前期 金曜日 3講時	
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村　敏明.問芝　志保.髙橋　原.谷山　洋三	3	前期 金曜日 5講時	
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村　敏明.問芝　志保.髙橋　原.谷山　洋三	4	後期 金曜日 5講時	
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村　敏明.問芝　志保.谷山　洋三.阿部　友紀	3	前期 月曜日 4講時 前期 月曜日 5講時	
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村　敏明.問芝　志保.谷山　洋三.阿部　友紀	4	後期 月曜日 4講時 後期 月曜日 5講時	
宗教学各論	日本の宗教社会学	2	問芝　志保	5	前期 火曜日 3講時	
宗教学各論	災害と宗教	2	木村　敏明	6	後期 金曜日 3講時	
死生学各論	死生学の諸問題	2	髙橋　原	5	前期 水曜日 3講時	宗教学各論
死生学各論	宗教と心理療法	2	髙橋　原	6	後期 水曜日 3講時	宗教学各論
死生学各論	死とともに生きることを学ぶ	2	竹之内　裕文	集中(6)	集中講義	宗教学各論
実践宗教学各論	スピリチュアルケア	2	谷山　洋三	5	前期 金曜日 4講時	宗教学各論
実践宗教学各論	宗教的ケア		谷山　洋三	6	後期 金曜日 4講時	宗教学各論
宗教学講読	アメリカ大学における怪談	2	ANDREWS　DALE	5	前期 火曜日 1講時	
宗教学講読	アメリカ大学における怪談	2	ANDREWS　DALE	6	後期 火曜日 1講時	
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村　敏明.問芝　志保.髙橋　原.谷山　洋三	5	前期 金曜日 5講時	
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村　敏明.問芝　志保.髙橋　原.谷山　洋三	6	後期 金曜日 5講時	
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村　敏明.問芝　志保.谷山　洋三.阿部　友紀	5	前期 月曜日 4講時 前期 月曜日 5講時	
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村　敏明.問芝　志保.谷山　洋三.阿部　友紀	6	後期 月曜日 4講時 後期 月曜日 5講時	

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 ２講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：問芝　志保

コード：LB43204,　**科目ナンバリング：**LHM-RES201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：日本の宗教と宗教学

２．Course Title (授業題目)：Religion and Religious studies in Japan

３．授業の目的と概要：近代・現代日本社会における宗教現象の変容過程とかかわらせながら、日本の宗教学・宗教社会学の歴史と学説・理論の展開を論じる。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will discuss the theoretical history of the study of religion and the sociology of religion in Japan, relating them to the process of transformation of religious phenomena in Japanese society.

５．学修の到達目標：宗教学・宗教社会学の基礎的知識および基本的な概念を学ぶ。日本人・日本社会にとって宗教とは何かという問題を考察する視点を養う。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn about the history of religious studies in Japan and its basic terms, and develop a perspective on what religion means for Japanese.

７．授業の内容・方法と進度予定：

(1)イントロダクション
(2)「日本の宗教」をいかにとらえるか
(3)幕末維新期の民衆宗教
(4)明治期の日本型政教関係
(5)近代の仏教・キリスト教・新宗教
(6)日本における宗教学の創始
(7)帝国の拡大と宗教学
(8)小括
(9)戦後の宗教政策
(10)都市化と宗教浮動人口
(11)高度経済成長期の新宗教
(12)戦後の宗教学
(13)1995 年と宗教学
(14)2011 年と宗教学
(15)まとめ

８．成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。

９．教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。

１０．授業時間外学習：配布資料を熟読し、わからない事項があった場合は事典等で調べる。
授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明

コード：LB33206, **科目ナンバリング：**LHM-RES201J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教と現代社会
２．Course Title（授業題目）：Religion and Modern Society
３．授業の目的と概要：この授業では、現代社会における宗教の諸相を具体的事例をとりあげつつ宗教学的視点から論じ、その意義や課題を明らかにしていく。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will explore the various aspects of religion in modern society from the perspective of religious studies to help students understand the meanings and tasks of religion in modern world.
５．学修の到達目標：現代社会において宗教が持つ意義や課題について理解できる。
宗教学的視点から現代社会の諸問題について考えることができる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn about the meanings and tasks of religions in modern world.
７．授業の内容・方法と進度予定：
１．イントロダクション
２．．宗教を定義／脱定義する　聖なるもの
３．　宗教を定義／脱定義する　儀礼
４．　宗教を定義／脱定義する　宗教集団
５．小括
６．現代宗教の基礎理論　世俗化
７．現代宗教の基礎理論　公共宗教
８．現代宗教の基礎理論　民間信仰
９．小括
１０．宗教と政治
１１．宗教と経済
１２．宗教と教育
１３．宗教と移民
１４．宗教と科学
１５．　まとめ
８．成績評価方法：
毎回の授業後に提出する小レポート[40%]、期末のレポート[60%]
９．教科書および参考書：
教科書は使用しない。参考書は授業中に指示するが全体的なものとしては『よくわかる宗教学』(櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015 年）をあげておく。
１０．授業時間外学習：日ごろから新聞等で宗教関連の情報を収集し、小レポートに反映させる。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 ２講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：庄司　一平

コード：LB42206,　**科目ナンバリング：**LHM-RES202J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教と大衆文化

２．Course Title (授業題目)：Religion and Popular Culture

３．授業の目的と概要：David Chidester, Authentic Fakes: Religion and American Popular Culture (2005) を輪読する。近現代（アメリカ大衆）文化との関連において、「宗教的であるとはどういうことか」について考え議論する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The class will read the whole textbook (David Chidester, Authentic Fakes: Religion and American Popular Culture, 2005) and discuss what the religious is (and isn’t) in our modern cultures.

５．学修の到達目標：宗教研究の基本的な概念・理論・方法について理解できる。
身の回りの「宗教的なもの」の文化的・歴史的背景について説明できる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand basic concepts, theories, and methodologies of religious studies and are to explain the cultural and historical contexts of “the religious” as well.

７．授業の内容・方法と進度予定：

テキストの各章を複数の担当者で分担する。担当者は授業時に用語解説・内容の説明・質問への応答等を行う。

1. イントロダクション（授業の概要・進め方について）
2. “Preface” “Introduction”
3. “Planet Hollywood”
4. “Popular Religion”
5. “Plastic Religion”
6. “Embodied Religion”
7. “Sacrificial Religion”
8. 小括
9. “Monetary Religion”
10. “Global Religion”
11. “Transatlantic Religion”
12. “Shamanic Religion”
13. “Virtual Religion”
14. “Planet America”
15. まとめ

８．成績評価方法：

授業への参加度」(50%) および「期末レポート」(50%) により総合的に評価する。

９．教科書および参考書：

David Chidester, Authentic Fakes: Religion and American Popular Culture, University of California Press, 2005.

１０．授業時間外学習：担当者は担当部分の日本語訳、用語や内容のリサーチを事前に行っておくこと。また事後には必要に応じて補足説明を行うこと。
他の参加者は用語や日本語訳・内容等について質問を用意しておくこと。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″〇″Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：阿部　友紀

コード：LB35304, **科目ナンバリング：**LHM-RES202J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教民俗学の基礎
２．Course Title（授業題目）：Basic study of Folk religion
３．授業の目的と概要：宗教民俗学の基礎的な用語や事例について学習する。日本では仏教、神道や巫俗などの多様な信仰を基礎として民俗宗教が形成されてきた。本授業では宗教民俗学に関連する用語・概念について、具体的事例を念頭にしつつ議論する。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this coures, learn it about a basic term and example of the folk religion in Japan.
５．学修の到達目標：日本の宗教民俗学と宗教文化を研究する上で必要な概念を理解し、議論できる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：understand and can discuss a concept on understanding Japanese religion culture.
７．授業の内容・方法と進度予定：
新谷尚紀編『講座日本民俗学２　不安と祈願』朝倉書店、2020 年、をテキストとして使用する。各章を担当者が分担し、発表レジュメを作成してディスカッションを行う。

1. はじめに　講義の進行について
2. 1　民俗信仰とは
3. 2　家の神
4. 3　山・海・里の生活にみる神々と祈願
5. 4　諸職と神々
6. 5　石の神仏
7. 6　神社と氏子
8. 7　寺院と檀家
9. 8　講と巡礼
10. 9　巫女と信仰・ノロ・ユタと信仰
11. 10　山岳信仰と修験
12. 11　兆・占・禁・呪
13. 12　疫神・流行神
14. おわりに　民俗信仰の理解
15. 予備日

８．成績評価方法：
学期末レポート（講義内容に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%）、毎回のレスポンスシート（出席確認を兼ねる。および授業参加度。20%）により評価する。
９．教科書および参考書：
新谷尚紀編『講座日本民俗学２　不安と祈願』朝倉書店、2020 年、をテキストとして使用する。
補足資料は授業時に提示する。
１０．授業時間外学習：レジュメ、レポート作成に向けて文献調査・資料の読み込みを行うこと。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：
なし

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 ５講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明.問芝　志保.髙橋　原.谷山　洋三

コード：LB35502,　**科目ナンバリング：**LHM-RES203J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教研究の技法

２．Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class

３．授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations done by 2-3 students in turn.

５．学修の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方
2. 学部３年発表　１グループ
3. 学部３年発表　２グループ
4. 学部３年発表　３グループ
5. 学部３年発表　４グループ
6. 学部３年発表　５グループ
7. 学部３年発表　６グループ
8. 予備日：学部３年欠席者のため
9. 学部４年発表　グループ１
10. 学部４年発表　グループ２
11. 学部４年発表　グループ３
12. 学部４年発表　グループ４
13. 学部４年発表　グループ５
14. 学部４年発表　グループ６
15. 予備日：学部４年欠席者のため

８．成績評価方法：

発表および討論への参加

９．教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

１０．授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 ５講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明.問芝　志保.髙橋　原.谷山　洋三

コード：LB45502,　**科目ナンバリング：**LHM-RES203J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教研究の技法

２．Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class

３．授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations done by 2-3 students in turn.

５．学修の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方
2. 学部３年発表　グループ１
3. 学部３年発表　グループ２
4. 学部３年発表　グループ３
5. 学部３年発表　グループ４
6. 学部３年発表　グループ５
7. 予備日：学部３年欠席者のため
8. 学部４年発表　グループ１
9. 学部４年発表　グループ２
10. 学部４年発表 グループ３
11. 学部４年発表 グループ４
12. 学部４年発表　グループ５
13. 予備日：学部４年欠席者のため
14. 学部２年発表　グループ１
15. 学部２年発表　グループ２

８．成績評価方法：

発表および討論への参加。

９．教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

１０．授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 ４講時.前期 月曜日 ５講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明.問芝　志保.谷山　洋三.阿部　友紀

コード：LB31406,　**科目ナンバリング：**LHM-RES204J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教学調査法

２．Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

３．授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

５．学修の到達目標：（１）宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
（２）調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：宗教学におけるデータとは
3. 第二回：参与観察法
4. 第三回：インタヴュー調査法
5. 第四回：質問紙調査法
6. 第五回：文献調査法・情報検索法
7. 第六回：映像記録法①　写真撮影の基本
8. 第七回：映像記録法②　ビデオ撮影の基本
9. 第八回：映像記録法③　写真撮影実習
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備①　地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備②　先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③　質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

８．成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

９．教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。
No textbook will be used. References will be introduced in the class.

１０．授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。
Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 ４講時.後期 月曜日 ５講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明.問芝　志保.谷山　洋三.阿部　友紀

コード：LB41404,　**科目ナンバリング：**LHM-RES204J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教学調査法

２．Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

３．授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそれのまとめ作業をおこなう。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

５．学修の到達目標：（１）宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
（２）調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション　後期授業の概要
2. 第一回、調査のまとめ①
3. 第二回、調査のまとめ②
4. 第三回、調査のまとめ③
5. 第四回、調査のまとめ④
6. 第五回、調査のまとめ⑤
7. 第六回、 調査のまとめ⑥
8. 第七回、 中間発表
9. 第八回、 動画編集①
10. 第九回、動画編集②
11. 第十回、動画編集③
12. 第十一回、動画編集④
13. 第十二回、動画編集⑤
14. 第十三回、成果発表
15. 第十四回、総括と反省

８．成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

９．教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。
No textbook will be used. References will be introduced in the class.

１０．授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。
Students are required to prepare for class assignments.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 ３講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：問芝　志保

コード：LB52303,　**科目ナンバリング：**LHM-RES301J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：日本の宗教社会学

２．Course Title（授業題目）：Sociology of Religion in Japan

３．授業の目的と概要：学術論文の講読をとおして、①近現代日本における宗教をとりまく諸事象の変容や展開を理解・考察するとともに、②論文の読み方・書き方・議論の仕方を習得する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By the reading of scholarly articles, we will (1) understand and examine the transformation and development of various events surrounding religion in modern and contemporary Japan, and (2) Learn how to read, write, and discuss papers.

５．学修の到達目標：宗教学・宗教社会学の基礎的な枠組みを身につける。また、「社会変動と宗教」という問題をとらえるための視座を養う。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn about a basic framework for the study of religion and the sociology of religion and develop a perspective on the issue of ″social change and religion/folk beliefs.

７．授業の内容・方法と進度予定：

(1)イントロダクション
(2)概説　日本の宗教社会学
(3)先祖祭祀と家
(4)墓と現代家族
(5)近代国家と宗教
(6)都市社会とキリスト教
(7)農村社会とキリスト教
(8)小括
(9)新宗教教団の現在
(10)寺院の現在
(11)神社の現在
(12)少子高齢化と宗教
(13)消費社会と宗教
(14)ディスカッション
(15)まとめ

・本年の課題論文は宗教社会学者の森岡清美によるものを中心にセレクトする予定である。
・各回１名の報告者が、１論文を要約したレジュメを作成し報告を行う。
・報告者（誰がいつ何を報告するか）は初回授業の際に決定する。報告者になることを希望する者は初回授業に必ず出席すること。
・報告者にならなかった者の成績評価は期末レポートの提出によって行う。

８．成績評価方法：

レジュメによる報告　もしくは　期末レポートの提出による。

９．教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。

１０．授業時間外学習：課題論文を熟読し、わからない事項があった場合は事典等で調べておく。
授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″○″Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 ３講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明

コード：LB65303,　**科目ナンバリング：**LHM-RES301J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：災害と宗教

２．Course Title (授業題目)：Disaster and Religion

３．授業の目的と概要：突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、儀礼的実践に関する文献を毎回取り上げ、現代社会における宗教の意義や課題について議論を行うことで問題の理解を深める。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course explores various previous studies on disaster and religion and discusses meanings and tasks of religion in modern society.

５．学修の到達目標：宗教学的なものの見方をみにつけることができる。
現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand meanings and tasks of religion in modern society through the topic about religion and disaster.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1.イントロダクション 1:何故災害と宗教か?
2.イントロダクション 2:発表準備
3.災害と神話
4.災害と神話
5.災害表象
6.災害表象
7.災害と祭礼
8.災害と祭礼
9.災害と死者
10.災害と死者
11.宗教と災害支援
12.宗教と災害支援
13.宗教とレジリエンス
14.宗教とレジリエンス
15.まとめ

８．成績評価方法：

授業における発表とコメントで評価する

９．教科書および参考書：

教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。

１０．授業時間外学習：使用文献の精読および発表準備

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 ３講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：髙橋　原

コード：LB53303, **科目ナンバリング：**LHM-RES307J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：宗教学各論**】**

１．授業題目：死生学の諸問題
２．Course Title (授業題目)：Some Topics on Death Studies
３．授業の目的と概要：死生学をめぐる諸問題について学ぶ。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students learn what death studies is.
５．学修の到達目標：死生学的観点から、文化の中の死について理解を深める。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand death in cultural contexts from the view point of death studies.
７．授業の内容・方法と進度予定：
指定テキスト（参考書）のトピックにそって、関連する話題を取り上げていく。
１．死生学のフィールド
２．死生・宗教・スピリチュアリティ
３．日本人の死生観
４．マスメディアで死生について考える
５．選択される命
６．流産・死産をめぐる胎児観
７．老いと病と死 －フレイルの知見を臨床に活かす
８．いのちの臨床倫理 －高齢者における人工的水分・栄養補給法の問題を題材に
９．エンドオブライフ・ケアー尊厳ある最期とは
１０．喪失と悲嘆
１１．グリーフケア
１２．デス・エデュケーション
１３．自死遺族・遺児支援
１４．戦争と死、喪失
１５．死生学とコミュニティ
８．成績評価方法：
毎回のミニットペーパーと期末レポートによる。
９．教科書および参考書：
石丸昌彦・山崎浩司『死生学のフィールド』放送大学教育振興会（2018/3/20）
１０．授業時間外学習：授業内で指示する。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 ３講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：髙橋　原

コード：LB63304, **科目ナンバリング：**LHM-RES307J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：宗教学各論**】**

１．授業題目：宗教と心理療法
２．Course Title (授業題目)：Religion and Psychotherapy
３．授業の目的と概要：宗教儀礼がもたらす癒しと健康について心理学的観点から理解する。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students learn the healing process of human psyche provided through religious rituals.
５．学修の到達目標：宗教とは何かという大きな問題を、人間の心に及ぼす影響という点から理解し、説明できるようにする。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand what the religion is in terms of its influence on human psyche.
７．授業の内容・方法と進度予定：
1 イントロダクション～心理療法について
2 健康の定義について
3 『無意識の発見』より～原始的心理療法
4 『無意識の発見』より～メスメリズムと催眠術
5 『無意識の発見』より～精神分析
6 悪魔祓（エクソシズム）
7 被災地の心霊現象
8 『野の医者は笑う』より～まぶい分析学
9 『野の医者は笑う』より～カウンセラーと宗教者
10 『病いの語り』より
11 事例研究 1
12 事例研究 2
13 事例研究 3
14 事例研究 4
15 まとめ
８．成績評価方法：
毎回のミニットペーパーと期末レポートによる。
９．教科書および参考書：
適宜授業内で指示する。
１０．授業時間外学習：授業内で指示する参考文献により理解を深める。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6) **単位数：**2

担当教員：竹之内　裕文

コード：LB98826,　**科目ナンバリング：**LHM-RES307J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：宗教学各論**】**

１．授業題目：死とともに生きることを学ぶ

２．Course Title (授業題目)：Cultivating Wisdom of Mortal Human Life

３．授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course describes the origins and purposes of the discipline of tanathology and covers various problems and challenges faced by modern medicine, such as an increasing demand for terminal care and home health nursing. Today, we are asked to provide care and support in multiple and varied circumstances: as volunteers in the areas affected by the Great East Japan Earthquake, as elderly care workers, etc. Ultimately, any member of our super-aged, mass death society may find him- or herself in the position of a caregiver. This course aims to prepare students for this role and give each of them an opportunity to look for his or her personal way to address a range of issues related to human life and death.

５．学修の到達目標：①対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。
②テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the key concepts of thanatology and gain a deeper insight into present-day issues concerning life and death. Students are expected to:
1)　discover the joys, as well as effectiveness, of dialogic inquiry through interactive, dialogic l

７．授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1）所定のテキストの各章（序章～終章）をめぐる 9 つの対話、2）受講者とともに問いを設定する 3 回の死生学カフェ、3）重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1)　ガイダンス：講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2)　ワールドカフェ　ある死別の経験から（序章）
- 3)　映画『生かされて生きる』鑑賞

- 4)　テキストをめぐる対話①　重度障害者自立ホームから（第 1 章）
- 5)　テキストをめぐる対話②　在宅緩和ケアの現場から（第 2 章）
- 6)　テキストをめぐる対話③　死者と共にある農村との出会い（第 3 章）
- 7)　死生学カフェ①

- 8)　テキストをめぐる対話④　いのちにあずかって生き、死ぬ（第 4 章）
- 9)　テキストをめぐる対話⑤　共に生きること、本当に生きること（第 5 章）
- 10)　テキストをめぐる対話⑥　森と湖の国の「福祉」（第 6 章）
- 11)　死生学カフェ②

- 13)　テキストをめぐる対話⑦　ホスピス運動の源流を辿る（第 7 章）
- 14)　テキストをめぐる対話⑧　死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話（終章）
- 15)　死生学カフェ③

８．成績評価方法：

ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話（全 9 回）の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8 点満点×9 回＝72 点のポイントを獲得します。
2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1 回あたり 3 点を加算します。

９．教科書および参考書：

講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ　哲学と対話』（ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223）をテキストとして使用します。宗教学研究室にて割引価格で購入できるように手配します。

The course is based on the instructor's book:
Takenouchi Hirobumi. Shi to Tomo ni Ikiru Koto wo Manabu: Tetsugaku to taiwa (Polano Shuppan, 2019)

１０．授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれません。しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話＝本番という考え方を共有してください。

Students are required to read the assigned texts in advance and fill in all feedback sheets (eight in total).

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次の URL を参照ください。https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/

http://hdl.handle.net/10297/00027723

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 ４講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：谷山　洋三

コード：LB55403,　**科目ナンバリング：**LHM-RES308J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：宗教学各論**】**

１．授業題目：スピリチュアルケア

２．Course Title (授業題目)：Spiritual Care

３．授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Discussing the debates on spiritual care in Japan and confirming its diversity and challenges; such as the background of the birth of Rinsho-shukyo-shi, or interfaith chaplain, the difference between spiritual care and religious care, and the utilization of religious resources as the commonality of both cares, The students will explore the specifics of care practice and deepen their understanding through a workshop.

５．学修の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解を深める。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand spiritual care provided in public spaces and its philosophy and methods.

７．授業の内容・方法と進度予定：

オンライン授業の場合は、ライブ配信で実施する。詳細は、Google Classroom に提示する。

第１回：オリエンテーション
第２回：チャプレンとビハーラ僧
第３回：「臨床宗教師」の誕生
第４回：生活の中にある心のケア
第５回：スピリチュアルペイン
第６回：スピリチュアルな探求
第７回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
第８回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
第９回：宗教的資源の活用
第１０回：宗教的ケア
第１１回：臨床宗教師の可能性
第１２回：臨床宗教師の資質
第１３回：ワークショップ「死の体験」
第１４回：ワークショップ振り返り
第１５回：まとめ

８．成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

９．教科書および参考書：

教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年
参考書：瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021 年

１０．授業時間外学習：授業内で指示する。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 ４講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：谷山　洋三

コード：LB65404,　**科目ナンバリング：**LHM-RES308J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：宗教学各論**】**

１．授業題目：宗教的ケア

２．Course Title（授業題目）：Religious Care

３．授業の目的と概要：「宗教的ケア」をテーマに、様々な宗教者、臨床宗教師、スピリチュアルケア師、医療従事者などの臨床の在り方について議論する。スピリチュアルケアの視点から、主として公共空間における宗教性をケアに用いることの意義や、効果についても検討したい。毎回テーマに関する雑誌論文等を指定し、演習形式で授業を進める。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will discuss the clinical practice of various religious leaders, chaplains, spiritual care providers, and medical professionals on the theme of "religious care." From the perspective of spiritual and religious care, we will also examine the significance and effectiveness of religiosity as a form of care, mainly in public spaces. The class will be conducted in a seminar format, with journal articles and other materials related to the theme assigned each time.

５．学修の到達目標：公共空間における宗教的ケアについて、その宗教的意義と、ケアとしての意義の両方の側面から検討し、理解を深める。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：We will examine and deepen our understanding of religious care in public spaces both from the perspective of its religious significance and its significance as a form of care.

７．授業の内容・方法と進度予定：

オンライン授業の場合は、ライブ配信で実施する。詳細は、Google Classroom に提示する。

第１回：オリエンテーション
第２回：奥山俊雄「宗教的ケアとスピリチュアルケア」
第３回：山本佳世子「宗教者による非信者への宗教的ケアについて」
第４回：深谷美枝「『スピリチュアリティを志向する援助』の鍵概念を巡る一試論」
第５回：大村哲夫「触れること触れないこと」
第６回：小括（宗教的ケアの宗教性）
第７回：竹之内裕文「地域コミュニティに支えられた生と死」
第８回：中川吉晴「G.R.A.C.E.におけるスピリチュアルケア」
第９回：藤沢真理子「スピリチュアルケアと巡礼接待」
第 10 回：内藤明美ら「スピリチュアルペインに関する緩和ケア医と精神科医の認識に関する全国調査」
第 11 回：小括（宗教的ケアとスピリチュアルケア）
第 12 回：大柴譲治「『パストラルケア』と『スピリチュアルケア』」
第 13 回：岡本宣雄「高齢者が生活上経験するスピリチュアルなテーマに関する研究」
第 14 回：高橋原「ケアの場に求められる宗教性とは何か？」
第 15 回：まとめ

８．成績評価方法：

発表[50％]、授業への取り組み[25％]、出席[25％]

９．教科書および参考書：

参考書：窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書店、2008 年
葛西健太ほか編『ケアとしての宗教』明石書店、2013 年
谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021 年

１０．授業時間外学習：授業内で指示する。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 １講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：ＡＮＤＲＥＷＳ　ＤＡＬＥ

コード：LB52102, **科目ナンバリング：**LHM-RES303J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：アメリカ大学における怪談

２．Course Title (授業題目)：A study of ghosts on American college campuses

３．授業の目的と概要：本授業では，アメリカ民俗学者である Elizabeth Tucker が 2007 年に著した"Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses"という民俗誌を読み，"ghostlore"，つまり幽霊の民俗や伝承についてディスカッションをする．本授業は英語で行う。(キーワード：幽霊，大学，アメリカ，伝承，フォークロア，死生観，通過儀礼，異文化)

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class we will read the folklore text "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" written by American folklorist Prof. Elizabeth Tucker. Discussions will concern "ghostlore" found on American college campuses. We will focus on one aspect of American folk belief, but it is hoped that students will gain greater insight into contemporary American society, and be challenged to re-examine through the critical lens of folklore studies their own culture's folk beliefs regarding supernatural phenomenon. This class will be conducted in English.

５．学修の到達目標：受講生は，(1) 英語で書かれたテキストの簡単な和訳することができる．(2) 英語で意見を述べることができる．(3) アメリカ大学に関わる怪談の特徴を説明することができる．(4) 自文化とアメリカの怪談の相違点と共通点を理解することができる．

６．Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to make basic translations of English text. (2) Be able to express an opinion in English. (3) Be able to explain the elements of American college ghostlore. (

７．授業の内容・方法と進度予定：

"Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" の各章を読みすすめます．予定としては，前期: Chapter 1 Campus Ghostlore, Chapter 2 Sensory Evidence, Chapter 3 Ghostly Evidence, & Chapter 4 Troubling Encounters; 後期: Chapter 5 Desperate Lovers, Chapter 6 Wailing Women, Chapter 7 Spectral Indians, & Chapter 8 Legend Quests.

８．成績評価方法：

授業中のディスカッションおよび課題： 50%; オンライン(Google classroom) 小テス： 50%.

９．教科書および参考書：

Textbook: "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" (University Press of Mississippi, 2007)

１０．授業時間外学習：1 to 3 hours per week of out of class study is required. 週 1～3 時間の自主的学修をすること.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

The textbook "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" is required. Paperback or Kindle. Copies will not be provided.

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 １講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：ＡＮＤＲＥＷＳ　ＤＡＬＥ

コード：LB62102, **科目ナンバリング：**LHM-RES303J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：アメリカ大学における怪談

２．Course Title (授業題目)：A study of ghosts on American college campuses

３．授業の目的と概要：本授業では，アメリカ民俗学者である Elizabeth Tucker が 2007 年に著した"Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses"という民俗誌を読み，"ghostlore"，つまり幽霊の民俗や伝承についてディスカッションをする．本授業は英語で行う。(キーワード：幽霊，大学，アメリカ，伝承，フォークロア，死生観，通過儀礼，異文化)（前期の LB461 の続き）

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class we will read the folklore text "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" written by American folklorist Prof. Elizabeth Tucker. Discussions will concern "ghostlore" found on American college campuses. We will focus on one aspect of American folk belief, but it is hoped that students will gain greater insight into contemporary American society, and be challenged to re-examine through the critical lens of folklore studies their own culture's folk beliefs regarding supernatural phenomenon. This class will be conducted in English. (The readings are a continuation from the first semester)

５．学修の到達目標：受講生は，(1) 英語で書かれたテキストの簡単な和訳することができる．(2) 英語で意見を述べることができる．(3) アメリカ大学に関わる怪談の特徴を説明することができる．(4) 自文化とアメリカの怪談の相違点と共通点を理解することができる．

６．Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to make basic translations of English text. (2) Be able to express an opinion in English. (3) Be able to explain the elements of American college ghostlore. (

７．授業の内容・方法と進度予定：

"Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" の各章を読みすすめます．予定としては，前期: Chapter 1 Campus Ghostlore, Chapter 2 Sensory Evidence, Chapter 3 Ghostly Evidence, & Chapter 4 Troubling Encounters; 後期: Chapter 5 Desperate Lovers, Chapter 6 Wailing Women, Chapter 7 Spectral Indians, & Chapter 8 Legend Quests.

８．成績評価方法：

授業中のディスカッションおよび課題： 50%; オンライン(Google classroom) 小テス： 50%.

９．教科書および参考書：

Textbook: "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" (University Press of Mississippi, 2007)

１０．授業時間外学習：1 to 3 hours per week of out of class study is required. 週 1～3 時間の自主的学修をすること．

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

The textbook "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" is required. Paperback or Kindle. Copies will not be provided.

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 ５講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明.問芝　志保.髙橋　原.谷山　洋三

コード：LB55502,　**科目ナンバリング：**LHM-RES304J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教研究の技法

２．Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class

３．授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations done by 2-3 students in turn.

５．学修の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方
2. 学部３年発表　グループ１
3. 学部３年発表　グループ２
4. 学部３年発表　グループ３
5. 学部３年発表　グループ４
6. 学部３年発表　グループ５
7. 学部３年発表　グループ６
8. 予備日：学部３年欠席者のため
9. 学部４年発表　グループ１
10. 学部４年発表　グループ２
11. 学部４年発表　グループ３
12. 学部４年発表　グループ４
13. 学部４年発表　グループ５
14. 学部４年発表　グループ６
15. 予備日：学部４年欠席者のため

８．成績評価方法：

発表および討論への参加

９．教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

１０．授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 ５講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明.問芝　志保.髙橋　原.谷山　洋三

コード：LB65502,　**科目ナンバリング：**LHM-RES304J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教研究の技法

２．Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class

３．授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations done by 2-3 students in turn.

５．学修の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方
2. 学部３年発表　グループ１
3. 学部３年発表　グループ２
4. 学部３年発表　グループ３
5. 学部３年発表　グループ４
6. 学部３年発表　グループ５
7. 予備日：学部３年欠席者のため
8. 学部４年発表　グループ１
9. 学部４年発表　グループ２
10. 学部４年発表 グループ３
11. 学部４年発表 グループ４
12. 学部４年発表　グループ５
13. 予備日：学部４年欠席者のため
14. 学部２年発表　グループ１
15. 学部２年発表　グループ２

８．成績評価方法：

発表および討論への参加。

９．教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

１０．授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：前期 月曜日 ４講時.前期 月曜日 ５講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明.問芝　志保.谷山　洋三.阿部　友紀

コード：LB51407, **科目ナンバリング：**LHM-RES306J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教学調査法

２．Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

３．授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

５．学修の到達目標：（１）宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
（２）調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：民間信仰の基礎　社会組織と講
3. 第二回：民間信仰の基礎　年中行事①
4. 第三回：民間信仰の基礎　年中行事②
5. 第四回：民間信仰の基礎　人生儀礼①
6. 第五回：民間信仰の基礎　人生儀礼②
7. 第六回：民間信仰の基礎　神社と寺院
8. 第七回：民間信仰の基礎　仏教と民俗
9. 第八回：民間信仰の基礎　民間信仰の現在
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備①　地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備②　先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③　質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

８．成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

９．教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。
No textbook will be used. References will be introduced in the class.

１０．授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。
Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：後期 月曜日 ４講時.後期 月曜日 ５講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：木村　敏明.問芝　志保.谷山　洋三.阿部　友紀

コード：LB61406,　**科目ナンバリング：**LHM-RES306J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：宗教学調査法

２．Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

３．授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそれのまとめ作業をおこなう。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

５．学修の到達目標：（１）宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
（２）調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション　後期授業の概要
2. 第一回、調査のまとめ①
3. 第二回、調査のまとめ②
4. 第三回、調査のまとめ③
5. 第四回、調査のまとめ④
6. 第五回、調査のまとめ⑤
7. 第六回、 調査のまとめ⑥
8. 第七回、 中間発表
9. 第八回、 動画編集①
10. 第九回、動画編集②
11. 第十回、動画編集③
12. 第十一回、動画編集④
13. 第十二回、動画編集⑤
14. 第十三回、成果発表
15. 第十四回、総括と反省

８．成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

９．教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。
No textbook will be used. References will be introduced in the class.

１０．授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。
Students are required to prepare for class assignments.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：